

第 25 回警察署協議会連絡会議事録

1 開催日時

令和 8 年 2 月 4 日（水）午後 3 時 30 分から午後 5 時 00 分まで

2 開催場所

広島県警察本部

3 出席者

- (1) 警察署協議会 26 人
- (2) 公安委員会 5 人
- (3) 警察本部 11 人

4 開催概要

(1) 公安委員長挨拶

公安委員長より、

- 平素から警察署の業務運営に対し、深い御理解と御協力を賜り、活発な協議会運営に御尽力されていることに感謝申し上げます。
- 各協議会において、特殊詐欺被害防止をはじめとする防犯活動へのアプローチ、通学路等の交通事故防止対策など、多くの住民が不安や疑問を感じていることについて、各警察署幹部と意見を交わし、管内の安全・安心の実現に反映されているものと承知している。
- 本日の連絡会では、各協議会の取組について、5つの協議会から事例発表を行っていただくことになっており、大変楽しみにしている。
- 忌憚のない御意見を交わしていただき、今後の各協議会の場で活かしていただきたい。

旨の挨拶があった。

(2) 警察本部長挨拶

警察本部長より、

- 平素から警察業務の各般にわたり、深い御理解と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 昨年の県内の治安情勢については、刑法犯認知件数は令和 4 年以降増加傾向にあるほか、特殊詐欺の被害総額は過去最高となるとともに、SNS 型投資詐欺等についても甚大な被害額になるなど、県民の皆様には大きな不安を与えており、深刻な状況である。
- また、交通事故死者数は、統計が残る昭和 23 年以降で最小の 58 人となり、「なくそう交通事故・アンダー60 作戦」の目標を達成することができたが、一方で、死者数全体に占める高齢者の割合が約 6 割と高い水準であり、依然として厳しい状況である。

- 本年、県警察では、「安全・安心を 県民とともに築く 力強い警察」を基本方針とし、その方針の元、運営重点を掲げて活動しており、先日開催した県下警察署長会議において、この基本方針と運営重点を基に各種課題に果敢に取り組んでいくこととしている。
- 今後、各協議会において、警察署長から、地域の実情に応じた方針や対策などを説明させていただき、皆様の御意見・御提言を頂く場面もあろうかと思うので、よろしくお願い申し上げます。

旨の挨拶があった。

(3) 講演

刑事部捜査支援分析課長から、「防犯カメラによる事後追跡捜査の概要」と題して、防犯カメラを活用した事後追跡捜査（通称リレー捜査）の概要について、パワーポイントを使用して講演が行われた。

山県警察署協議会から、

- 山県は山間部のため管内に防犯カメラが少ないが、どの程度あれば事件捜査に有効であるのか。また、今後設置していくに当たって有効な方法はあるのか。旨の質疑があり、捜査支援分析課長から、
- 先般、新聞報道がなされた三次市甲奴町の例を紹介させていただく。当時甲奴町では、町内に公的な防犯カメラの設置がなく、地域住民から何とかならないかと駐在所に相談があり、それを受けて警察署の方から振興協議会連合会や商工会に働きかけた結果、町内主要交差点への防犯カメラの設置が実現した。
- 防犯カメラの設置促進については、広島県が「防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン」を策定しており、犯罪発生状況を踏まえたカメラの設置方法等の助言を行っている。
- 防犯カメラは犯罪捜査に非常に有効であり、設置に向け、警察も働き掛けを行うが、地域の皆様の協力も必要である。防犯カメラの設置や管理には高額な費用が掛かるので、補助金制度等も活用していただきたい。

旨の説明があった。

また、呉警察署協議会から、

- 県内の防犯カメラの設置箇所等についてはどうやって把握しているのか。旨の質疑があり、捜査支援分析課長から、
- パトロール等の通常勤務を通じて、設置箇所を把握しており、把握した設置箇所については、勤務員が分かるようにしている。新たに建てられたビル等についても確認し、把握するようにしている。

旨の説明があった。

(4) 事例発表

各協議会の実施状況について、次のとおり、5協議会の代表から事例発表があった。

ア 安佐北警察署協議会

安佐北警察署協議会から、「第5回高陽・白木こどもフェスタ」に会長が

参加」と題して、

- 私が会長に就任した際、警察署に対し、「協議会として警察と一緒に安佐北区民の安全安心な生活維持に資する活動があれば、同行支援させていただきたい」旨要望し、昨年11月に開催された「第5回高陽・白木こどもフェスタ」という地域のイベントに警察と一緒に参加させていただいた。
- これは子供に地域の職業を体験してもらうイベントで、警察としては、チラシ配布による防犯活動、パトカーや災害対策車両のレスキュー車等の展示や写真撮影、子供向けの指紋検出体験等を行っており、私はチラシ配布のほか、パトカー等の展示や写真撮影の案内に携わった。
- 警察の不祥事も起こっているが、このイベントに参加した方が防犯チラシを快く受け取ってくださったことや、警察車両は子供達の憧れの的で大変人気があったのを見て、警察は地域住民から信頼され、親しまれている存在であると強く感じた。

旨の発表があった。

発表を受け、竹原警察署協議会から、

- 警察の情報を地域へ広報する方法としてチラシの配布を行ったということだが、協議会から地域へ広報する場合、他にどのような方法を取っているのか、あれば参考にさせていただきたい。

旨の質疑があり、安佐北警察署協議会から、

- 広報は協議会の事務局と一緒にやっている。自転車駐輪場に一緒に行き、自転車利用者に施錠を促したり、交通キャンペーンに委員も参加し、一緒に広報したりしている。

旨の回答があった。

イ 世羅警察署協議会

世羅警察署協議会から、「広報活動の推進」と題して、

- 昨年7月の協議会で、委員から、「広報啓発活動で防災無線が使用されているが、世羅町には「せらケーブルネット」があるので、ケーブルテレビをどんどん活用してほしい。」旨の提言があった。
- それまでは、職場体験活動に参加する中学生が出演し、防犯や交通安全に関する広報啓発動画を作成して、世羅町内に年1回程度放映している状況で、活用しているとは言えなかった。
- この提言を受け、世羅警察署では、迅速な対応を取り、署員も積極的に出演し、
 - ・ 昨年7月に警察官採用をアピールする動画や地元出身女子プロレスラーの世羅りささんと署員がコラボし、特殊詐欺被害防止や飲酒運転撲滅のための広報啓発動画を作成
 - ・ 昨年9月には夏休み期間中に職場体験学習をしている中学生と署員が一緒になって「守ろう自転車の交通ルール」と題した広報啓発動画を作成するなど、意欲的に取り組んでいただいた。

- 作成した動画は3日程度、繰り返し放映された後、警察署のロビー等で来庁者の方に視聴していただいたり、防犯教室等で活用されたりし、それを見た町民から、「警察官を身近に感じた」「とにかく分かりやすい」などの反響があり、好評だと聞いている。

旨の発表があり、作成した実際の動画について視聴した。

ウ 広島南警察署協議会

広島南警察署協議会から、「うっかり信号無視防止のための看板の設置等について」と題して、

- 昨年7月の協議会で委員が、「広島南道路の交差点で、直進の矢印信号で左折し、交通違反に問われる車両が多い場所があるので改善してほしい。」と要望した。
- それに対し、警察署では、県警ホームページや県警SNSで注意喚起するとともに、看板設置の可否等について警察本部や国土交通省と協議した結果、運転者に注意喚起するための看板4枚を同交差点に設置することになったが、次回協議会まで期間があることから、警察署から委員に対して対応状況について文書で報告していただいた。迅速かつ丁寧な対応を取っていただき、協議会の実効性を感じることができた意義深い事例であった。

旨の発表があった。

エ 府中警察署協議会

府中警察署協議会から、「会長による講演の実施」と題して、

- 昨年1月に府中警察署からの要請で、警察署の皆さんに講演をする機会を頂き、「地域、外部から見た府中警察署」という題目で講演を行った。
- この講演の中で、
 - ・ 私は公共施設の管理・運営に関する公的な仕事をしており、民間企業との違いを実感している。関係機関との連携が重要であるとよく言われるが、文化の異なる機関の方とお互いを理解し、仕事を進めていくことの難しさを実感するとともに、連携していくことの重要性を強く感じている。
 - ・ また、行政は市民に対して一方的な情報発信をすることが多いが、もっと情報に敏感になり、相手の立場に立って相手にとってどんな情報が必要か想像して伝えることが重要であると感じた。
 - ・ 警察がオトモポリスの取組や、様々な情報を分析した結果を基に工夫をして活動をされていることについて、委員になって初めて知った。
 - ・ 府中市に短期間の赴任となる警察官も多いが、積極的に地域のことを知ろうと努めておられ、地元の間人よりよく理解しているのではないかと感じる。

などについて講話した。

- 講演の後、署員から、「県民・市民目線を踏まえて仕事に取り組む重要性を感じた。」などの意見を頂き、皆さんの業務に役立ったのなら講演をして良かったと感じた。

旨の発表があった。

オ 山県警察署協議会

最後に、山県警察署協議会から、「協議会の意見・要望に応じてくれる山県警察署」と題して、

- 昨年5月、管内のある交差点で、車両同士の出会い頭事故が連続して3件発生したことを受け、第1回目の警察署協議会で委員から標識の設置等を提言した。
- その約5月後、同交差点に道路標示とハンプと呼ばれる道路が盛り上がった形状の構造物が設置され、それ以降、同交差点では出会い頭による交通事故の発生はないと聞いている。
- 私が住んでいる筒賀地区の駐在所が平成14年に廃止になり、現在は筒賀連絡所として施設だけが残っている。そのような事情から、警察署にこの地区のパトロール強化を依頼しており、現在もパトカーや警察官の姿をよく見る。私は委員になってから、協議会前には警察に対する要望等を地域住民に聞くが、「山県警察署はよくやってくれている」という声をよく聞く。
- 山県警察署では、協議会においても、委員からの意見に対して些細な質問等にも丁寧に対応してくれ、これらの積み重ねが警察署に対する大きな信頼につながっており、非常に頼もしく感じる。
- 我々としても仕事や地域の中で見聞きしたことを警察署に伝えるとともに、協議会で知り得た有用な情報を地域に還元するなどして、管内の安全安心を守る一助になっていきたい。

旨の発表があった。

(6) コメント（講評）

ア 警察本部長

警察本部長から、

- 発表を拝聴し、それぞれの協議会でしっかりと取り組んでおられることに重ねてお礼を申し上げる。
- 警察だけだと気づかないこともあり、様々な視点を持つ皆様から御意見を頂くことで警察も良い仕事をするができると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

旨のコメントがあった。

イ 公安委員長

公安委員長から、

- 皆様の発表を拝聴し、改めて委員の皆様が、地域の方と警察の橋渡し役を担っておられると感じ、感謝申し上げます。
- 社会問題になっている特殊詐欺、闇バイトやストーカー事案等の犯罪を抑制していくためには、被害に遭われた方や場合によっては加害者になりうる方が適切な時期に警察に相談することが重要だと思う。
- 一方で、一般の方にとっては警察は少し敷居が高いのではないかと感じて

いる。私も公安委員になる前は街中でパトカーを見ると、何もしていなくても緊張していたが、公安委員になってからは警察に対する認識が大きく変わり、今ではパトカーを見ると見守ってもらっていると安心感を感じるようになった。これは私が警察行政に関わることで、警察のことを知ったからだと思う。

- 本日、警察行政に関して積極的に情報発信をしていただいたり、警察と一緒に活動していただいた事例の発表があったが、このような活動を通じ、一般の方にもっと警察を知っていただくことで、適切に頼っていただき、それが犯罪の抑止につながるという良い循環が生まれると良いと思う。

旨のコメントがあった。